

平成28年度  
北秋田市教育委員会  
点検・評価報告書

平成29年11月  
北秋田市教育委員会

# 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

点検及び評価の対象年度　：　平成28年度

## <構成内容>

- 1　点検・評価の趣旨等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
  - (1) 点検・評価の趣旨
  - (2) 点検・評価の対象
  - (3) 点検・評価の方法
  - (4) 学識経験者の知見の活用
  - (5) 報告書の作成経緯
  - (6) 北秋田市教育委員会委員名簿
  
- 2　教育委員会の会議開催状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
  
- 3　教育委員会の会議審議状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
  - 平成28年度　教育委員会審議案件一覧
    - (1) 平成28年度　議案案件
    - (2) 平成28年度　報告案件
    - (3) 平成28年度　その他案件
  
- 4　総合教育会議開催状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
  - 平成28年度　総合教育会議審議案件一覧
    - (1) 平成28年度　審議案件
  
- 5　教育事務の点検評価書【総合点検・評価】　・・・・・・・・ P 7
  
- 6　主要事業点検・評価票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
  - 【点検・評価対象事業一覧】
  - 【事業個別点検・評価票】

## 1 点検・評価の趣旨等

### (1) 点検・評価の趣旨

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、平成28年度の教育委員会事務の点検及び評価を行い、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### (2) 点検・評価の対象

本報告書の点検・評価は、平成28年度の事務・取組を対象として実施しています。また、学校教育や社会教育に関することなど、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条で教育委員会の職務権限とされ、本市教育委員会が所管するすべての事務のうち、第2次北秋田市総合計画実施計画（H28～H30）に登載された事務事業を対象としています。

### (3) 点検・評価の方法

第2次北秋田市総合計画実施計画（H28～H30）に登載された①学校教育の充実、②生涯学習の充実、③芸術・文化の継承と振興、④スポーツの振興の4施策、58事業について、年度当初に設定した評価指標に基づき、次の4項目について内部評価を実施しました。

【有効性】 1＝期待以下（90%以下）、2＝期待どおり（90%超）、3＝期待以上（100%超）

【費用対効果】 1＝課題有り（90%以下）、2＝予定どおり（90%超）、3＝予想以上（100%超）

【必要性】 1＝低い、2＝高い、3＝不可欠

【方向性】 1＝廃止・休止（終了）、2＝縮小、3＝統合、4＝継続、5＝拡大

#### (4) 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、客観性を確保するため、学識経験者2名を評価委員に委嘱し、個別に意見をいただきました。

北秋田市教育委員会点検評価委員 秋田大学北秋田分校長 濱田 純 氏

北秋田市教育委員会点検評価委員 元秋田県立秋田北鷹高等学校長 佐藤 英樹 氏

#### (5) 報告書の作成経緯

報告書の作成は次のように行いました。

6月26日 平成28年度事業の内部評価と平成29年度対象事業、評価指標の設定

7月27日 教育委員会7月定例会で、平成29年度点検・評価の実施方針等について報告

8月30日 教育委員会8月定例会で、点検評価委員を選任

10月16日 点検評価会議を開催し、学識経験者から意見聴取

10月26日 教育委員会10月定例会で、平成28年度点検・評価について審議

11月29日 教育委員会11月定例会で、平成28年度点検・評価の公表について了承 → 公表

#### (6) 北秋田市教育委員会委員名簿

(平成29年3月31日現在)

職 名	氏 名	委員任期
委 員 長	永 井 高 道	平成27年5月14日 ～平成31年5月13日
委員長職務 代 理 者	佐 藤 正 俊	平成28年5月14日 ～平成32年5月13日
委 員	吉 田 美 樹	平成26年5月14日 ～平成30年5月13日
委 員	小 林 真	平成25年5月14日 ～平成29年5月13日
委員兼教育長	三 澤 仁	平成25年5月14日 ～平成29年5月13日

## 2 教育委員会の会議開催状況

教育委員会会議については、原則として毎月1回の「教育委員会定例会」と、状況に応じた「教育委員会臨時会」を開催している。平成28年度は、合計で15回開催した。

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・3回

No	開催日	案件数			所用時間	備考
		議決	報告	その他		
1	H28. 4. 28			9	55分	
2	H28. 5. 13	2			20分	臨時会
3	H28. 5. 27	3	1	6	58分	
4	H28. 6. 30	5		5	55分	
5	H28. 7. 28	1		6	65分	
6	H28. 8. 25	1		6	60分	
7	H28. 9. 29	1		6	48分	
8	H28. 10. 27	1		6	90分	
9	H28. 11. 24	3		5	70分	
10	H28. 12. 22	2		5	80分	
11	H29. 1. 12	1			58分	臨時会
12	H29. 1. 26	2		5	80分	
13	H29. 2. 22	2		6	125分	
14	H29. 3. 2	1			30分	臨時会
15	H29. 3. 30	12		7	70分	
	計	37	1	72	964分	

## 3 教育委員会の会議審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第25条及び北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成17年教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき、平成28年度は37件の議決案件、1件の報告案件、72件のその他案件について審議した。

<平成28年度 教育委員会審議案件一覧>

- (1) 平成28年度 議決案件

議案番号	件名	提出年月日
H28年18	北秋田市教育委員会委員長の選挙について	H28. 5. 13
19	北秋田市教育委員会委員長職務代理者の指定について	H28. 5. 13
20	北秋田市学校給食センター条例の一部を改正する条例案の北秋田市議会提出について	H28. 5. 27
21	北秋田市テレビ放送中継施設条例を廃止する条例案の北秋田市議会提出について	H28. 5. 27
22	北秋田市公民館非常勤館長の任命について	H28. 5. 27
23	北秋田市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	H28. 6. 30

議案番号	件名	提出年月日
24	北秋田市学校給食調理場条例施行規則を廃止する規則の制定について	H28. 6. 30
25	北秋田市小中学校給食職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について	H28. 6. 30
26	北秋田市教育委員会公印取扱規則の一部を改正する規則の制定について	H28. 6. 30
27	北秋田市伊勢堂岱遺跡景観審議会委員の委嘱について	H28. 6. 30
28	北秋田市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	H28. 7. 28
29	北秋田市立合川学童研修センター条例及び北秋田市教員住宅条例の一部を改正する条例案の北秋田市議会提出について	H28. 8. 25
30	北秋田市教育委員会事務点検及び評価実施要綱の制定について	H28. 9. 29
31	北秋田市図書館条例の一部を改正する条例案の北秋田市議会提出について	H28. 10. 27
32	北秋田市体育施設条例の一部を改正する条例案の北秋田市議会提出について	H28. 11. 24
33	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	H28. 11. 24
34	学校施設環境改善交付金交付要綱第8の1に基づく施設整備計画の事後評価について	H28. 11. 24
35	北秋田市児童生徒就学援助費支給要綱の一部を改正する訓令の制定について	H28. 12. 22
36	北秋田市民ふれあいプラザ子育て世代支援スペース使用要綱の制定について	H28. 12. 22
H29年1	通学区域の指定校変更について	H29. 1. 12
2	北秋田市放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例案の北秋田市市議会提出について	H29. 1. 26
3	北秋田市公民館条例等の一部を改正する条例案の北秋田市市議会提出について	H29. 1. 26
4	北秋田市スポーツ大会出場費補助金交付要綱の制定について	H29. 2. 22
5	北秋田市合宿等誘致促進事業費補助金交付要綱の制定について	H29. 2. 22
6	県費負担教職員の内申について	H29. 3. 2
7	北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則の一部を改正する規則の制定について	H29. 3. 30
8	北秋田市小・中学校児童生徒各種大会出場費補助金交付要綱の一部を改正する訓令の制定について	H29. 3. 30
9	北秋田市社会教育委員の委嘱について	H29. 3. 30
10	北秋田市公民館運営審議委員の委嘱について	H29. 3. 30
11	北秋田市生涯学習奨励員の委嘱について	H29. 3. 30
12	北秋田市青少年問題協議会委員の委嘱について	H29. 3. 30
13	北秋田市図書館協議会委員の委嘱について	H29. 3. 30
14	北秋田市文化会館運営委員会委員の委嘱について	H29. 3. 30
15	北秋田市浜辺の歌音楽館運営審議会委員の委嘱について	H29. 3. 30
16	北秋田市文化財保護審議会委員の任命について	H29. 3. 30
17	北秋田市スポーツ推進審議会委員の任命について	H29. 3. 30
18	北秋田市スポーツ推進委員の委嘱について	H29. 3. 30

※議案番号は、暦年による一連番号を記載。

## (2) 平成28年度 報告案件

番号	件名	提出年月日
H28年1	専決処分の報告について（議決を経た工事請負費の契約金額を変更することについて（仮称）北秋田市生涯学習交流施設建設工事）	H28. 5. 27

## (3) 平成28年度 その他案件

番号	件名	提出年月日
1	平成28年度北秋田市教育委員会各課の課題と主な事業	H28. 4. 28
2	平成28年度北秋田市学校教育ビジョンについて	H28. 4. 28
3	平成28年度北秋田市教育センター事業について	H28. 4. 28
4	平成28年度北秋田市の児童・生徒数について	H28. 4. 28
5	平成28年度北秋田市市立学校の管理職一覧	H28. 4. 28
6	平成27年度末の人事異動について	H28. 4. 28
7	平成28年度北秋田市の教育事情について	H28. 4. 28
8	4月の学校の状況について	H28. 4. 28
9	全国学力学習状況調査	H28. 4. 28
10	5月の学校の状況	H28. 5. 27
11	総務文教常任委員会の所管事務調査について	H28. 5. 27
12	あきたリフレッシュ学園「目指せ！日本海サイクリング」について	H28. 5. 27
13	「チャレンジデー2016」の結果について	H28. 5. 27
14	平成28年度全県教育委員長・教育長会議について	H28. 5. 27
15	平成29年度県公立小中学校教頭候補者の推薦について	H28. 5. 27
16	6月の学校の状況	H28. 6. 30
17	6月議会定例会より	H28. 6. 30
18	教科書展示会について	H28. 6. 30
19	平成29年度公立小・中学校教頭候補者の推薦について	H28. 6. 30
20	「教育留学」について	H28. 6. 30
21	7月の学校の状況	H28. 7. 28
22	小・中学校校長等緊急連絡協議会について	H28. 7. 28
23	第1回「いじめ」実態調査について	H28. 7. 28
24	子ども交流事業「合川まとも火交流プロジェクト」(7/23～25)	H28. 7. 28
25	学校再編計画に係る第1回検討委員会(7/28)	H28. 7. 28
26	「教育留学」について	H28. 7. 28
27	8月の学校の状況	H28. 8. 25
28	A L Tによる英語・外国語活動について	H28. 8. 25
29	子ども交流事業「合川まとも火交流プロジェクト」報告(8/10)	H28. 8. 25
30	「いじめゼロサミット」について(8/23)	H28. 8. 25
31	学校再編計画に係る第2回検討委員会(8/24)	H28. 8. 25
32	「教育留学」について	H28. 8. 25
33	9月の学校の状況	H28. 9. 29
34	「教育留学推進事業」について	H28. 9. 29

番号	件名	提出年月日
35	第12回北秋田市発明工夫展受章者一覧	H28. 9. 29
36	9月議会定例会より	H28. 9. 29
37	小・中学校再編計画に係る説明会について	H28. 9. 29
38	埼玉共栄大学生の教育実習について	H28. 9. 29
39	10月の学校の状況	H28. 10. 27
40	小・中学校再編計画に係る説明会について	H28. 10. 27
41	第41回全国遺跡環境整備会議について	H28. 10. 27
42	地方教育行政功労者表彰について	H28. 10. 27
43	理科・社会科研究発表会について	H28. 10. 27
44	全国学力学習状況調査について	H28. 10. 27
45	11月の学校の状況	H28. 11. 24
46	小・中学校再編計画に係るパブリックコメントについて	H28. 11. 24
47	市教育委員の学校訪問について	H28. 11. 24
48	県北教育会議について	H28. 11. 24
49	第2回「いじめ」実態調査より（7月～10月）	H28. 11. 24
50	12月の学校の状況	H28. 12. 22
51	12月議会定例会より	H28. 12. 22
52	北教育事務所長による校長面接・教育長面接について	H28. 12. 22
53	第3回小中学校再編プラン検討委員会について	H28. 12. 22
54	秋田で学ぼう！教育留学推進事業「短期チャレンジ留学Ⅱ」	H28. 12. 22
55	1月の学校の状況	H29. 1. 26
56	秋田で学ぼう！教育留学推進事業について	H29. 1. 26
57	教育センター所員発表会について	H29. 1. 26
58	「冬の笑楽校」について	H29. 1. 26
59	県学習状況調査の公表について	H29. 1. 26
60	2月の学校の状況	H29. 2. 22
61	平成28年度北秋田読書感想文・感想画コンクール	H29. 2. 22
62	インフルエンザにおける学級閉鎖措置について	H29. 2. 22
63	北秋田市学校再編検討委員会「市長への『答申』について」	H29. 2. 22
64	教育留学生の合川小・中学校への受け入れ	H29. 2. 22
65	3月定例議会について	H29. 2. 22
66	3月の学校の状況	H29. 3. 30
67	インフルエンザによる学級閉鎖措置について	H29. 3. 30
68	3月定例議会について	H29. 3. 30
69	市立小・中学校卒業式について	H29. 3. 30
70	あきたリフレッシュ学園卒園・修了式について	H29. 3. 30
71	いじめ実態調査について	H29. 3. 30
72	平成28年度末教職員の定期人事異動について	H29. 3. 30



#### 4 総合教育会議開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）の施行により、平成27年度から「総合教育会議」を設置している。

総合教育会議では、市長と教育委員会が協議を行い、教育に関する総合的な施策の大綱を策定する他、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に構すべき措置等について協議・調整を行う。平成28年度は2回開催した。

<平成28年度 総合教育会議審議案件一覧>

##### (1) 平成28年度 審議案件

番号	件名	年月日
1	平成28年度主な教育施策について	H28. 6. 30
2	平成28年度主要教育施策の実施状況（上半期）及び平成29年度における教育に関する重点施策について	H28. 11. 24

#### 5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

平成28年度における教育委員会の当初予算は20億1,936万8千円であったが、7,540万9千円の増額補正、309万円の予備費支出があり、予算合計が20億9,786万7千円となっている。これは、前年度予算と比較して19億3,893万5千円減少しており、一般会計に占める教育費の割合は約7.9%で、前年度に比べ約8.1%減少、過去5年間と比べて最も少ない割合となっている。主な要因としては、平成26年度～平成27年度の継続事業であった「(仮称)生涯学習交流施設建設事業」が終了したことが挙げられる。

平成28年度における教育委員会の主要施策についての個別点検・評価については、次頁以降に示している58事業において実施した。各事業の採点による点検・評価結果の概要は次のとおりである。

「有効性」については、「要保護・準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業」「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「北秋田市民プール管理運営事業」の3事業において「期待以上」の成果が得られたと評価された。特に「要保護・準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業」については、入学前に学用品費を支給したことが、非常に有効であると評価された。一方、「陶芸ハウス管理事業」「あいターミナル管理事業」の2事業が「期待以下」と評価された。

「費用対効果」については、「小中学校パソコン導入事業」「要保護・準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業」「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「10キロチャレンジマラソン大会補助事業」の4事業において「期待以上」の成果が得られたと評価されたが、昨年度の6事業を下回る結果となった。また、「課題有り」と評価された事業は昨年度の4事業から2事業に減少したが、「陶芸ハウス管理事業」は6年続けて、「あいターミナル管理事業」は8年続けて「課題有り」と評価された。

「必要性」については、17事業が「高い」、41事業が「不可欠」と評価され、「低い」と評価された事業はなかった。

「方向性」については、「小中学校校舎等内外改修補修事業」「スクールバス運行事業」「学校生活サポート事業」「伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業」「北秋田市スポーツ少年団大会派遣費補助事業」の5事業が「拡大すべき」と評価された。また、48事業が「継続」と評価されたが、「陶芸ハウス管理事業」「あいターミナル管理事業」「北秋田市スポーツ大会開催補助事業」の3事業は「縮小」と評価された。

「陶芸ハウス管理事業」「あいターミナル管理事業」の2事業は、利用者数の減少と利用が特定の利用者に偏っているため「有効性」「費用対効果」に大きな課題を残しているが、「必要性」は高いと評価されていることから、今後の管理方法、利活用策の検討が急務となっている。「北秋田市スポーツ大会開催補助事業」については、新規大会の開催は容易でないことから、現在開催されている大会を維持することとする。平成28年度で終了した事業は「浜辺の歌音楽館屋根葺替事業」「鷹巣北野球場改修事業」の2事業となった。

平28年度の点検・評価対象事業は、大規模建設事業が軒並み竣工したことから、大部分が施設の維持管理等利用者の利便性向上のために例年実施している事業となった。

新たな取り組みとしては、これまで秋田県の委託事業であった「あきたリフレッシュ学園」の市単独実施、北部給食センターとの統合による中部給食センターの廃止、「外国青年招致事業」のALT7名体制とコーディネーターの配置、市民ふれあいプラザコムコムと伊勢堂岱縄文館のオープン、チャレンジデーでの対戦市との特産品交換、100キロチャレンジマラソンのランナー目線による動画配信等があげられる。また、学校再編の具体的ビジョンを示すことを目的として15か年計画となる「北秋田市小中学校適正規模・配置再編プラン2017-2031」を策定した。

今後も児童生徒を始め人口減少が予想される中、「必要不可欠」な事業を限られた予算で効率よく実施し、かつ、高い成果を上げることが一層求められる。そのため、例年実施している事業についても常に内容を精査しながら取り組んでいくことが引き続き大きな課題となる。

4回目の参加となった「チャレンジデー2016」は、市民ら1万8,972人が参加した。昨年に比べ、参加者は1,409人減少、参加率は3.1%落ち込んだものの、55.6%となり、2年連続で金メダルを獲得した。島根県雲南市と鹿児島県南さつま市と対戦する3つどもえの戦いとなり、雲南市には勝利したものの、南さつま市には敗れ対戦成績は1勝1敗となった。事前に自治会や各種団体、企業等へ広く声掛けを行ったほか、当日は広報車による巡回、大型ショッピングセンターで参加報告ができる取り組みとしたことが、2年連続で参加率50%以上の金メダルにつながった要因である。次年度以降もスポーツを通じて北秋田市が元気になるよう取り組みを継続したい。

会議については、教育委員会を15回、総合教育会議を2回開催した。平成27年度から設置された総合教育会議では、市長と教育委員が一堂に会し、北秋田市における教育全般にわたり、教育理念や方針、施策や事業等について協議、意見交換が行われた。会議では、昨年度に本会議で提案されたJ E Tプログラムコーディネーターの採用を県内で初めて取り入れたことなども報告され、改めて重要な教育施策の決定を行う重要な会議であることが確認された。

点検評価を終え、学識経験者からは次のようなご意見をいただいた。

「昨年は評価に対して遠慮している印象を受けたが、今年は遠慮しない評価であると感じた。教育委員会の事業内容が分からない市民も多いと思われることから、自分たちが評価したものをもっとPRすべきである。今は教育留学事業が全国的に認知されているが、北秋田市は新聞3紙が取り上げてくれる環境にある。何もしなければ『こういう評価が〇個ありました』で終わってしまうため、積極的なプレスリリースにより、教育という資産をもっと市民へPRすべきであると感じた。」

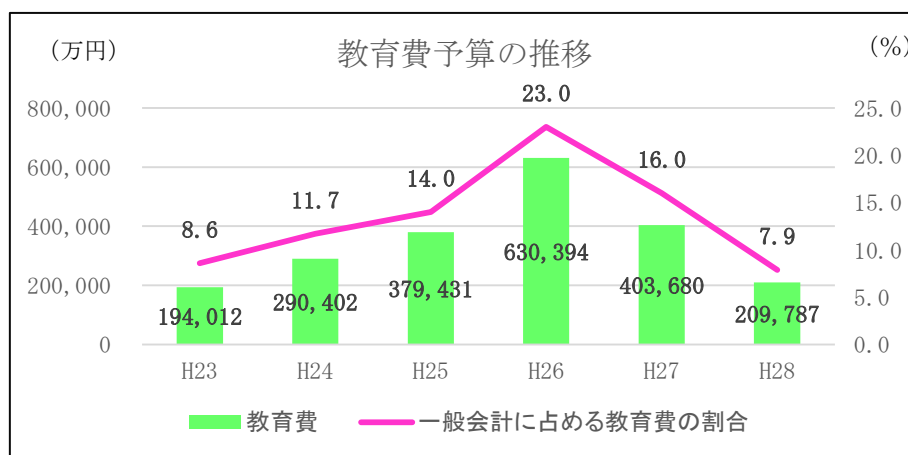
「評価基準が曖昧である。どういった目的で、どのような目標を立て、どう事業実施しているのか、更なる検討を図り、評価基準の明確化に努められたい。また、教育費予算が減少してきており、将来の人づくりのために心配であり懸念される。教育費が増えないと先細りになることから、予算確保に努め、素晴らしい事業を展開していただきたい。」

いただいたご意見を踏まえ、より効果的な教育行政の推進に努めて参りたい。

平成29年11月

北秋田市教育委員会

【参考】



## 6 主要事業点検・評価票

【点検・評価対象事業一覧】

施策名	施策の方向性
学校教育の充実	①学校の適正配置 ②基礎学力の定着と学力向上 ③体験を重視したキャリア教育・ふるさと教育の充実

No	事業名	【総務課】
1	あきたリフレッシュ学園事業	
2	小中学校校舎等内外改修補修事業	
3	学校給食センター運営事業	

No	事業名	【学校教育課】
4	外国青年招致事業	
5	総合学習補助事業	
6	教育センター事業	
7	小中学校パソコン導入事業	
8	遠距離通学費補助事業	
9	スクールバス運行事業	
10	要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業	
11	学校生活サポート事業	
12	学校保健事業	
13	学校安全整備事業	
14	小中学校備品整備事業	
15	児童生徒大会派遣費補助事業	
16	不登校児童生徒対策事業	
17	小中学校楽器整備事業	

施策名	施策の方向性
生涯学習の充実 【重点プロジェクト】	①地域づくりにつながる社会教育 ②北秋田市民ふれあいプラザを拠点とした生涯学習の充実と地域の活性化 ③学びの場・発表の場の提供 ④児童・生徒の学校外の学習・交流促進

No	事業名	【生涯学習課】
18	少子化対策・子育て支援事業	
19	新成人事業	
20	日本語教室開催事業	
21	高齢者教育事業	
22	青少年育成事業	
23	公民館管理事業	
24	公民館講座開設事業	
25	花いっぱい運動推進事業	
26	農林業振興センター（鷹巣地区公民館）管理事業	
27	農村環境改善センター（合川公民館）管理事業	
28	コミュニティセンター（森吉公民館）管理事業	
29	ふるさと文化センター（阿仁公民館）管理事業	
30	陶芸ハウス管理事業	
31	あいターミナル管理事業	
32	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業	
33	放課後児童健全育成事業	
34	放課後児童健全育成事業（整備費）	
35	放課後子ども教室事業	
36	学校支援地域本部事業	

施策名	施策の方向性
芸術・文化の継承と振興	①伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進 ②芸術、文化活動の支援 ③有形文化財の保存と活用 ④無形文化財の保護と継承

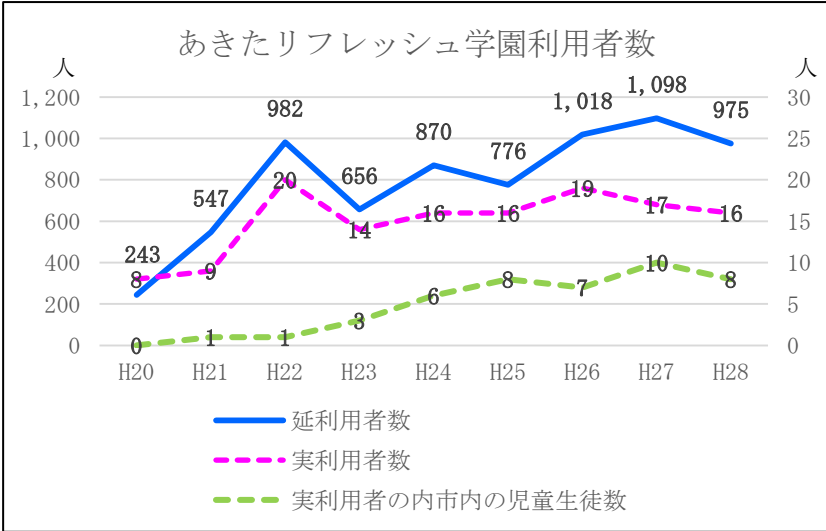
No	事業名	【生涯学習課】
37	伊勢堂岱遺跡見学環境整備事業	
38	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業	
39	縄文まつり開催事業	
40	交流センター管理事業	
41	図書館事業	
42	文化会館管理事業	
43	みちのく子供風土記館管理事業	
44	浜辺の歌音楽館運営事業	
45	浜辺の歌音楽祭開催事業	
46	浜辺の歌音楽館屋根葺替事業	
47	文化祭開催事業	
48	伊勢堂岱縄文館管理事業	
49	胡桃館遺跡埋蔵資料等管理事業	
50	文化財保護事業	
51	民俗芸能大会事業	

施策名	施策の方向性
スポーツの振興	①スポーツ環境の充実 ②生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③競技スポーツの向上

No	事業名	【スポーツ振興課】
52	鷹巣北野球場改修事業	
53	北秋田市民プール管理運営事業	
54	薬師山スキー場管理運営事業	
55	100キロチャレンジマラソン大会補助事業	
56	北秋田市スキー大会補助事業	
57	北秋田市スポーツ少年団大会派遣費補助事業	
58	北秋田市スポーツ大会開催補助事業	

【事業個別点検・評価票】

※比較のため、括弧書きで前年度の評価結果を記載しています。

1 あきたリフレッシュ学園事業				主管課	総務課																																								
決算額	11,864 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)																																								
		2 (3) 期待どおり	2 (1) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続																																								
活動内容	県内の人間関係やストレス等で心の問題に悩む小中学生に、自然体験や農作業体験等さまざまな体験活動や集団活動を通して、心と体の元気を取り戻すきっかけと自立に向けた自信を与える場を提供するため、あきたリフレッシュ学園を開園した。																																												
評価指標	学校に行けなくなった小中学生への学びの場の提供 宿泊利用による規則正しい生活リズムの確立 学校復帰・高校進学																																												
成果と課題	<p>平成28年度は197日間開園し、16名の利用があった。4名が年度途中で学校に通学できるようになり、中学3年生3名全員が高校へ進学した。また、定期的な宿泊利用により、入園当初よりも健康的な生活を取り戻す子もみられた。</p> <p>今後も市内各学校、さわやか教室、スペース・イオとの連携を図りながら、学校へ行けない子どもたちの貴重な学びの場として事業実施していく。</p>																																												
	 <table border="1"> <caption>あきたリフレッシュ学園利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延利用者数</th> <th>実利用者数</th> <th>実利用者の内市内の児童生徒数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H20</td><td>243</td><td>8</td><td>0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>547</td><td>9</td><td>1</td></tr> <tr><td>H22</td><td>982</td><td>20</td><td>1</td></tr> <tr><td>H23</td><td>656</td><td>14</td><td>8</td></tr> <tr><td>H24</td><td>870</td><td>16</td><td>6</td></tr> <tr><td>H25</td><td>776</td><td>16</td><td>8</td></tr> <tr><td>H26</td><td>1,018</td><td>19</td><td>7</td></tr> <tr><td>H27</td><td>1,098</td><td>17</td><td>10</td></tr> <tr><td>H28</td><td>975</td><td>16</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>					年度	延利用者数	実利用者数	実利用者の内市内の児童生徒数	H20	243	8	0	H21	547	9	1	H22	982	20	1	H23	656	14	8	H24	870	16	6	H25	776	16	8	H26	1,018	19	7	H27	1,098	17	10	H28	975	16	8
年度	延利用者数	実利用者数	実利用者の内市内の児童生徒数																																										
H20	243	8	0																																										
H21	547	9	1																																										
H22	982	20	1																																										
H23	656	14	8																																										
H24	870	16	6																																										
H25	776	16	8																																										
H26	1,018	19	7																																										
H27	1,098	17	10																																										
H28	975	16	8																																										
学識経験者の意見	<p>全国で12万人以上いる不登校の児童生徒は今後も増加することが予想される。本事業は北秋田市の一つの特徴となっており、高い評価を得ている事業である。確実に成果が上がっている事業であり、引き続き個を生かした支援、指導をしていただきたい。</p> <p>また、市長部局との連携を密にし、移住・定住に繋げてもらいたい。</p>																																												

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)	2＝期待どおり(90%超)	3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)	2＝予定どおり(90%超)	3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い	2＝高い	3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了)	2＝縮小	3＝統合
		4＝継続
		5＝拡大

2 小中学校校舎等内外改修補修事業				主管課	総務課
決 算 額	(小) 32,551 千円 (中) 18,248 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (5) 拡大
活 動 内 容	校舎、体育館等学校施設の機能を維持するため、経年劣化した建物や故障した設備の維持補修工事を行い学校生活の環境整備を図った。				
評 価 指 標	児童生徒が安心して学校生活を送るための環境整備				
成 果 と 課 題	小学校施設25件、中学校施設15件の維持補修工事を行い学校環境の整備を図った。 建物や設備の維持補修については、安全性や緊急性を考慮し優先順位を決めて進めているが、各学校施設とも老朽化が進み、年々改修箇所が増加傾向にある。学校再編プランを基に、効率良く改修・補修を進めていく必要がある。				
学識経験者の意見	児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、継続実施を図られたい。				

3 学校給食センター運営事業				主管課	総務課
決 算 額	304,029 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内各小中学校の児童、生徒に対し、給食を通じた食育を行い、健康の増進を図ることを目的として実施した。				
評 価 指 標	児童・生徒に対する給食の実施・栄養教諭による食育指導				
成 果 と 課 題	学校教育の一環として、北秋田市内小学校10校1,409名、中学校5校757名及び受託事業として比内支援学校たかのす校71名への給食を実施。 8月から鷹巣中部学校給食センターを廃止し、鷹巣北部学校給食センターに統合し、3センターとなった。 アレルギーを発症する児童、生徒が増加している中、家庭における対策等の栄養指導、助言等を行ったほか、国の指針を基に、市としての取り組み方を統一化した。				
学識経験者の意見	事故等に細心の注意を払いながら、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

4 外国青年招致事業				主管課	学校教育課
決算額	29,012 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (3) 予定どおり	2 (3) 高い	4 (5) 継続
活動内容	外国語指導助手 (ALT) として、7名 (すべてアメリカ出身) を招聘し、小学校10校、中学校5校に派遣している。外国語活動・外国語指導の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指している。ALTの人数や学級数、また派遣上の問題が特になければ、原則的に中学校区単位で同一のALTを担当させ、児童生徒の視点とALTの児童生徒理解の視点からも、小中連携を図っている。ALTコーディネータ派遣事業を実施し、ALTの資質向上に努める。				
評価指標	学校や学年の実態はそれぞれ違うが、次の通り定める。 ①県学習状況調査平均通過率で県平均+3% (中1・中2) ②同質問紙「外国語活動 (英語) の勉強が好きだ」が県平均+3% (小5~中2) ③英検3級以上取得と相当の英語力を有すると思われる割合が県平均を上回る あくまでも指標の一つとして捉え、実態に応じて継続的に指導に当たる。				
成果と課題	①中2生: H28+3.8、H27+5.0      中1生: H28+0.3、H27+5.0 ②中2生: H28+12.2、H27+9.5      中1生: H28+0.7、H27+8.2 ③中3生: H28 (市45.7、県37.1) 県平均との土はあくまで目安の一つとして捉え、個に応じた指導の充実を図る必要がある。ALTの資質向上を目指し、コーディネータ訪問を定期的に行う。				
学識経験者の意見	個性的なALTの指導能力向上を図るため、様々な相談に乗れるようコーディネータの定期訪問と研修の継続実施を図りたい。				

5 総合学習補助事業				主管課	学校教育課
決算額	750 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活動内容	小・中学校において特色ある総合的な学習活動が充実できるよう50千円を上限に補助金を交付した。(50千円×15校) 更に、この活動での移動手段に市民バスの利用を許可した。				
評価指標	全ての小中学校において、特徴を活かした活動に取り組む。				
成果と課題	農園活動、地域との交流活動、ふるさとを知る活動、伝統文化継承活動、福祉や産業に目を向け、職業観をもって自分の将来について考えられる取組など、幅広い分野において各校が地域の特徴を活かした総合的な学習を実施する事ができたと考えられる。				
学識経験者の意見	非常に効果の高い事業であることから、各校の要望を集約し、それに応えられるような体制構築を検討願いたい。				

【評価基準】

有効性……………1=期待以下(90%以下)      2=期待どおり(90%超)      3=期待以上(100%超)  
費用対効果…1=課題あり(90%以下)      2=予定どおり(90%超)      3=予想以上(100%超)  
必要性……………1=低い      2=高い      3=不可欠  
方向性……………1=廃止・休止(終了)      2=縮小      3=統合      4=継続      5=拡大



6 教育センター事業				主管課	学校教育課
決算額	4,271 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	北秋田市学校教育ビジョンに掲げる「主体的に学び、新しい時代を創造する子ども」を目指す子どもの姿として、小中学校の教職員研修を計画・実践した。組織を事業調査部、教職研修部、授業・教科部に分け、その中に各部会を設置し、一人一人に過度な負担をかけないようにしながら、教職員研修の充実を図っている。				
評価指標	子どもたちの学びの質の向上を図るために、授業づくり・授業改善が最も重要である。教職員に「事前研究会」と「授業研究会」についての満足度について尋ねる年度終盤に実施するアンケート（4段階評価）において、十分満足と概ね満足の合計が90%を超えるようにする。 県学習状況調査の児童生徒アンケートで「学校生活に満足している（学校が楽しい）」の4段階評価で「4」の児童が70%、生徒が65%を超えるようにする。				
成果と課題	多忙感を解消し研修の効率化を図った。 順次導入しているタブレット型パソコンを授業で活用する研修を複数回行った。 校務支援ソフト導入推進協力員を各分掌から選出し、校務支援システム導入に向けた研修や視察を行った。 理科教育推進部会と社会科教育推進部会の反省を事業実施当時の直後に行い、部会の回数を削減する方向性を定めた。				
学識経験者の意見	大変頑張っている事業であり、今後も継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

7 小中学校パソコン導入事業				主管課	学校教育課
決 算 額	65,976 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	3 (2) 予想以上	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	I C Tを活用して情報活用能力の育成と教科の学習目標の達成、及び校務の情報化処理に対応するため、パソコン（デスクトップ・ノート・タブレット）及び周辺機器の環境整備を年次計画（H26～H29）で実施した。 H28年度実施校：鷹巣小学校、綴子小学校				
評 価 指 標	情報活用能力の育成を図るため、各学校のコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整える。				
成 果 と 課 題	年次計画により平成28年度は鷹巣小学校、綴子小学校に導入し、小中学校全15校中、13校にタブレット型パソコンを導入した。導入した学校では校内全てで無線接続が可能となり学習状況に応じて各種情報を活用する環境を整えられた。 各学校の教職員がパソコン使用に慣れてきたことにより、ある程度のトラブル対応が可能となったことから、業者へ委託している保守管理料が大幅に削減となった。（H27年度対比：△6,900千円）				
学識経験者の意見	本事業の実施により、これまでできなかった授業が展開できるようになるため、現場の要望も聞きながらどんどん進めていってほしい。				

8 遠距離通学費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	941 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	小学校4km以上、中学校6km以上の遠距離通学者のうち、公共交通機関を利用することが可能な児童生徒にバス定期券を現物支給した。 ・鷹巣南小（坊山・四渡） 4名 ・鷹巣南中（坊山・四渡） 3名 ・前田小（根森田・塚田） 7名 鷹巣小と鷹巣西小の学校統合により今泉地区がスクールバスに変更となった。				
評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
成 果 と 課 題	バス定期券を学校を通じて対象児童全員の保護者に交付する事ができ、合理的かつ確実に児童生徒の通学が保障された。また、遠距離通学児童生徒が義務教育を受けるうえでの費用負担の不均衡が緩和された。 今後も事業を継続し、児童生徒の通学の安全確保と保護者の負担軽減を図っていく必要がある。				
学識経験者の意見	広大な行政面積を有する当市では有効な事業であるため、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

9 スクールバス運行事業				主管課	学校教育課
決算額	55,548 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (4) 拡大
活動内容	遠距離通学者の交通手段として、スクールバス及びスクールタクシーを運行。 直営バス：11台 委託バス：2台 スクールタクシー：4台 小学校：10校 (237人) 中学校：5校 (160人)				
評価指標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
成果と課題	スクールバスの運行にあたって、事故や混乱もなく安全な運行ができた。また、遠距離通学児童生徒が義務教育を受けるうえでの費用負担の不均衡が緩和された。今後、学校の統廃合が進んだ場合には利用が増える事から、先を見据えたスクールバスの保有及び運行方法の検討が必要となる。				
学識経験者の意見	広大な行政面積を有する当市では有効な事業であるため、継続実施を図られたい。また、運転手の高齢化問題に対しては、早め早めに対策を講じられたい。				

10 要保護・準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業				主管課	学校教育課
決算額	30,199 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		3 (2) 期待以上	3 (2) 予想以上	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	教育の機会均等をを図るため、経済的理由により義務教育就学が困難な場合や特別支援学級の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力に応じて経費の一部を補助する。 要保護児童生徒 小学校 5名 中学校 6名 283千円 準要保護児童生徒 小学校189名 中学校119名 27,622千円 特別支援児童生徒 小学校 10名 中学校 3名 481千円 新入学学用品費入学前支給 小学校 46名 中学校 37名 1,813千円				
評価指標	関係機関との連携により、要保護世帯等の状況を速やかに把握し制度の活用を促す。 「新入学学用品費」の入学前支給を検討する。				
成果と課題	関係機関との連携により速やかな状況把握と適切な制度の運用を図ることができた。更には「新入学学用品費」の入学前支給について、平成29年度入学者から実施した。今後も、新入学学用品費の目的から入学前支給の継続実施が必要と考える。				
学識経験者の意見	新入学学用品費の入学前支給は非常に良い取り組みであるため、今後も継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

11 学校生活サポート事業				主管課	学校教育課
決算額	38,689 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (3) 期待どおり	2 (3) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (5) 拡大
活動内容	<p>学習面や生活面において個別の配慮や支援の必要な児童生徒が学校生活に適應できることを目的として、小学校9校、中学校4校へ支援員を配置した。また、教職員と協力して適切な支援ができるよう、学級担任との合同研修会を実施した。</p> <p>配置人数・・・小学校22名、中学校6名 対象児童生徒数・・・小学校78名、中学校26名</p>				
評価指標	一人一人の状況に応じた支援が行われ、対象児童生徒が学校生活に適應している。				
成果と課題	<p>支援員を配置することにより、対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができるほか、周囲の児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができることと、担任の負担が軽減され学級経営や授業づくりが充実することで、学校全体の教育効果を高めている。</p> <p>学校によっては支援員一人当たりの担当児童が5.3人の小学校や6人の中学校もある。また、支援員1人が複数学級を受け持っている現状から、支援員の充実を図っていく必要がある。</p>				
学識経験者の意見	支援員がいるのといないのとではまるっきり違い、非常に効果がある事業である。配置人数が足りない印象を受けるため、現状を確認し、増員についても検討を図りたい。				

12 学校保健事業				主管課	学校教育課												
決算額	14,845 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)												
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続												
活動内容	<p>学校保健安全法に基づき、各校に学校医を委嘱し、児童生徒及び教職員の健康診断・各種検診及び健康相談を実施し、健康状態を把握することにより学校教育の円滑な実施を図った。</p> <p>内科医12名、歯科医5名、眼科医3名、耳鼻科医4名、学校薬剤師12名を委嘱。</p> <p>各種健康診断の実施実績</p> <table border="0"> <tr> <td>児童生徒</td> <td>1,880人</td> <td>受診率99.6%</td> <td>※在籍数1,888人</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94人</td> <td>受診率100%</td> <td>※人間ドック除く</td> </tr> <tr> <td>就学時健診</td> <td>192人</td> <td>受診率100%</td> <td></td> </tr> </table>					児童生徒	1,880人	受診率99.6%	※在籍数1,888人	教職員	94人	受診率100%	※人間ドック除く	就学時健診	192人	受診率100%	
児童生徒	1,880人	受診率99.6%	※在籍数1,888人														
教職員	94人	受診率100%	※人間ドック除く														
就学時健診	192人	受診率100%															
評価指標	各校在籍児童生徒及び教職員に対して健康診断・各種検査等の実施や保健指導等により、健康状態の把握や疾病等への早期治療へ結びつける。																
成果と課題	<p>健康診断及び各種検査等を円滑に実施することができた。</p> <p>未受診者については不登校等による長期欠席者であるが、学校や保護者と連携して受診できるよう対応していきたい。</p>																
学識経験者の意見	データ共有を図るなど、学校間でよく連携した取り組みがされている。教職員の疾病者数も少ないとのことで、今後も管理職による状況把握、配慮に努めることで良好な教育環境の維持を図りたい。																

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)	2＝期待どおり(90%超)	3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)	2＝予定どおり(90%超)	3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い	2＝高い	3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了)	2＝縮小	3＝統合
		4＝継続
		5＝拡大



15 児童生徒大会派遣費補助事業				主管課	学校教育課
決算額	9,347 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (3) 高い	4 (4) 継続
活動内容	全県大会以上の大会に出場する児童生徒・引率者に、交通費、宿泊費及び参加料を補助し、児童生徒の知育・体育・徳育の伸長と健全育成を図った。 補助金件数 128件				
評価指標	上位大会出場を目標とした活動に支援することで、児童生徒のやる気を促す。				
成果と課題	体育活動、文化活動において上位大会出場という目標を持って、児童生徒、学校の教職員が取り組んでおり、目標達成のためには本事業は有効であることから事業を継続していく必要がある。				
学識経験者の意見	継続実施を図りたい。				

16 不登校児童生徒対策事業				主管課	学校教育課
決算額	1,276 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	市教育センター内に「北秋田さわやか教室」として、不登校児童生徒をサポートする適応指導教室を設置している。教職に携わったことのある教員免許取得者（非常勤職員）1名を配置し、学校や関係機関と連携しながら、学校復帰に向けた支援や学習指導を行った。				
評価指標	さわやか教室への通級がきっかけとなり、学校への登校日数が増える。生活習慣が向上する。				
成果と課題	4名が通級し、1名は高校進学する事ができ、2名は学校復帰できた。1名はさわやか教室に通級しているが、学校へ登校する日が増えてきている。 さわやか教室で、もう少し広い学習スペースを確保することが課題となる。				
学識経験者の意見	継続実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

17 小中学校楽器整備事業				主管課	学校教育課
決算額	2,590 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (3) 期待どおり	2 (3) 予定どおり	2 (3) 高い	4 (4) 継続
活動内容	年次計画で、各中学校（平成26年度は鷹小を含む。）における楽器を新規購入し、その整備・充実を図った。				
評価指標	計画に沿って楽器の整備を行う。				
成果と課題	吹奏楽部（鷹巣小学校においては金管バンド）の楽器を整備し、部活動の充実を図ることができた。 H26年度 鷹巣小学校 森吉中学校 H27年度 鷹巣中学校 H28年度 阿仁中学校 H29年度 合川中学校（予定） H30年度 鷹巣南中学校（予定） 年次計画事業のため、平成30年度まで継続していく必要がある。				
学識経験者の意見	学校の希望、要望を取り入れながら、継続実施を図りたい。				

18 少子化対策・子育て支援事業				主管課	生涯学習課
決算額	1,567 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	保育園・小学校・中学校が実施した「家庭教育講座」等の実施に対して経費の支援をした。 講座内容は、親や祖父母、園児・児童・教職員を対象に、「親子のふれあい・命の授業・絵本・情操教育等」のほか各課題に沿った内容で開催した。 また、北秋田市子ども会育成連合会に補助金を交付し、子ども会事業の体験活動などを通して、ふるさとを愛する心の醸成に努めた。				
評価指標	学校や保育現場で抱える子どもの問題に対し、外部からの講師を活用し、課題解決に向けた取り組みを進める。 また、自然体験活動とおとした子ども会活動を推進し、地域間の子ども交流を図りながら、たくましい子どもを育成する。				
成果と課題	開催回数：・保育園 7回 589人 ・小学校 2回 75人 ・中学校 2回 174人 この事業をとおして、保護者同士が課題を共有することもでき、悩みを話し合える機会もつくることができた。今後はさらに、地域全体で家庭教育を推進できるよう、理解を深めていくことが望まれている。				
学識経験者の意見	参加者数が少ないとの課題に対し、平成30年度から必要とされる家庭に訪問支援を実施するとのことなので、その成果を見守りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

19 新成人事業				主管課	生涯学習課
決算額	515 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	成人式は市内在住者及び市内中学校を卒業した者を対象とし、記念式典、出身校の代表として新成人6人による記念発表、記念写真撮影、「はじめの一步」(二十歳のメッセージ集)を作成し、二十歳の門出を祝福した。 事前に新成人の実行委員会を組織し、受付など成人者が自ら運営に参加している。				
評価指標	新成人をお祝いし激励する式典を行い、新成人が郷土の良さを見直すきっかけづくりに努める。 成人者が積極的に成人式の準備にかかわるよう呼びかけ、若者の交流の機会にもなるよう努める。				
成果と課題	大人の自覚を持ち、自立した成人となるよう祝福し、激励する式典を挙行することができた。また、成人式実行委員会による自主運営を図り、式の進行や、配布するしおり「初めの一步」の製本作業、各学校紹介など工夫をこらした内容を新成人自ら計画するなど、充実した成人式を迎えることができた。				
学識経験者の意見	評価指標の一つに、参加率も加えてはどうか。				

20 日本語教室開催事業				主管課	生涯学習課
決算額	437 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	外国から嫁いだ方などを対象に、日本語及び日本文化の習得のためのサポートに努めた。				
評価指標	日常生活に必要な不可欠な日本語の実践能力を向上させる目的で、参加者のレベルに合わせ3コースを設定し、講師と指導ボランティアが細かな指導を行う。生涯学習事業や地域事業などに積極的に参加できるよう支援し、日本語の会話能力の向上や文化の違いについても学ぶ機会とする。				
成果と課題	日本語教室を開催したことにより、嫁いで来られた方が日常生活を送るために必要な日本語習得への支援ができた。				
学識経験者の意見	継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大



21 高齢者教育事業				主管課	生涯学習課
決算額	659 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	<p>市内4地区（鷹巣・合川・森吉・阿仁）で、高齢者の学びの機会を充実させ、いきがづくりや仲間づくりなど地域の活性化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学・開講式、全体講座、移動研修、卒業・閉講式</li> <li>・クラブ活動や学園祭（鷹巣地区のみ）などの活動が行われ学習意欲を高めた。</li> </ul>				
評価指標	<p>移動研修、講座、大学同士の交流活動、クラブ活動などを通して、楽しみながら学びや交流の輪を広げる。</p> <p>学んだ成果の発表や交流の機会をつくり、高齢者の新たな生きがいを図り、さらに地域のボランティア活動に生かせるよう支援する。</p>				
成果と課題	<p>各高齢者大学での活動をとおして、多くの学生が学び合い、生涯現役という気概が醸成され、新たな生きがいを図っている。自主的な運営を進めることにより、社会貢献がさらに拡大が期待できる。</p>				
学識経験者の意見	<p>少ない予算で非常によく頑張っている。</p>				

22 青少年育成事業				主管課	生涯学習課
決算額	587 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	<p>青少年育成北秋田市民会議、少年保護育成委員会の活動は、地域での非行防止活動や青少年の見守り活動を実施した。</p> <p>青少年問題協議会では、現代的な課題として「食」の問題を通じて青少年の健全育成を考える研修会を開催し、各団体において問題意識を共有した。</p> <p>大阿仁小学校で実施した「防災キャンプ」では、避難所運営や救急搬送前の応急措置対応等を住民協働で行った。</p>				
評価指標	<p>青少年の健全育成を推進するため、共通の課題解決に向けて情報を共有し、お互いのネットワークを築きながら地域の青少年問題に取り組む。</p> <p>防災キャンプは、学校を拠点として住民と児童、保護者の協力体制を築きながら、災害時に向けて体験活動を行う。</p>				
成果と課題	<p>研修会を開催し、情報を共有することにより、青少年を取り巻く環境について、関係団体や行政機関との問題意識の共有を図ることができた。</p>				
学識経験者の意見	<p>継続実施を図られたい。</p>				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

23 公民館管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	24,203 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	坊沢公民館、栄公民館、合川駅前公民館、前田公民館について、市民が講座等で利用できるよう施設の維持管理を行った。				
評価指標	適切な維持管理を行うことで、親しみやすく安心して利用できるようにする。				
成果と課題	講座の開催に工夫をしながら、地域の活動拠点として利用しやすい公民館を目指し、住民が集いやすい環境づくりを行った。				
学識経験者の意見	<p>予算削減や人員削減等により、全国的に公民館学習機能の弱体化が進む中、非常によくやっていると思う。</p> <p>今後益々高齢者が元気で暮らすためには拠点が必要となる。本事業の費用対効果は大変高いと認識している。元気な高齢者の拠点になることで、医療費の削減に繋がっているというデータがあれば、本事業の裏づけとなる。</p> <p>今後の課題として、将来的な公民館の多目的な利活用も検討してはどうか。</p>				

24 公民館講座開設事業				主管課	生涯学習課
決算額	3,457 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	趣味・教養・課題解決のための講座など、市民の学びの機会として内容の充実に努めた。また、学んだことを地域活動に生かし、市民の交流を図りながら、より良い地域づくりへの人材育成を図った。				
評価指標	<p>身につけた知識や技術、教養を「生涯学習フェスタ」、「文化交流のつどい」等で発表するなど、学びの成果を地域に還元する人材を育成する。</p> <p>また、市民が自発的に活動し、地域課題と向き合いながら地域協働の意識を高める。</p>				
成果と課題	講座やサークル活動をとおして、市民の生涯学習を推進する取り組みを実施し、文化祭やフェスタ等で発表することができた。高齢者や多世代との交流を実施し、学校での体験学習等を支援するボランティア活動を充実することができた。				
学識経験者の意見	市民の学びの場の提供のため、内容充実、継続実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
 必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
 方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

25 花いっぱい運動推進事業				主管課	生涯学習課
決算額	369 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	花いっぱい運動推進協会が推進する、北秋田市花だんコンクールの開催、花の種子の各団体への配布、花だんづくりの講習会の開催など、市の環境美化運動の支援に努めた。また、前田小学校と地域団体との協働する「植樹活動」にも協力し、市の花アジサイを植栽した。				
評価指標	自治会、婦人会、高齢者グループ、個人などが、花壇づくりをすることにより、花いっぱいの地域づくりを進める。また、花を育てる活動をとおして、地域美化に対する心を育成する。				
成果と課題	花づくりによる美しいまちづくりを目指し、市民の心を豊かにする活動を実施することができた。参加団体数、個人参加数が減る傾向にあり、後継者を増やせるような取り組みを図りながら、花を育てることで地域が元気になるように、市内全域に呼びかけたい。				
学識経験者の意見	一時の熱が冷めてきたように感じるため、もう一度頑張ってもらいたい。道端の花は潤いや安らぎをもたらすことから、以前のような取り組みが復活してくれるとありがたい。				

26 農林業振興センター（鷹巣地区公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	19,133 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活動内容	七座、綴子、沢口、七日市公民館の維持管理に努め、施設利用者の利便性向上を図った。				
評価指標	適切な維持管理を行い、市民の拠り所として安心して利用できるようにする。				
成果と課題	講座の開設に工夫をしながら、地域の拠点として利用しやすく、多くの市民に親しまれる公民館を目指した。各公民館の老朽化が顕著なため、施設整備を年次計画で実施していかなければならない。				
学識経験者の意見	<p>予算削減や人員削減等により、全国的に公民館学習機能の弱体化が進む中、非常によくやっていると思う。</p> <p>今後益々高齢者が元気で暮らすためには拠点が必要となる。本事業の費用対効果は大変高いと認識している。元気な高齢者の拠点になることで、医療費の削減に繋がっているというデータがあれば、本事業の裏づけとなる。</p> <p>今後の課題として、将来的な公民館の多目的な利活用も検討してはどうか。</p>				

**【評価基準】**

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

27 農村環境改善センター（合川公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	6,497 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	合川公民館施設の整備充実と、定期講座の開催など学びの機会拡充を図った。				
評価指標	市民が講座等で利用できるよう施設の維持管理及び図書室の管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用することができた。				
学識経験者の意見	<p>予算削減や人員削減等により、全国的に公民館学習機能の弱体化が進む中、非常によくやっていると思う。</p> <p>今後益々高齢者が元気で暮らすためには拠点が必要となる。本事業の費用対効果は大変高いと認識している。元気な高齢者の拠点になることで、医療費の削減に繋がっているというデータがあれば、本事業の裏づけとなる。</p> <p>今後の課題として、将来的な公民館の多目的な利活用も検討してはどうか。</p>				

28 コミュニティセンター（森吉公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	8,754 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	森吉公民館施設整備の充実と、定期講座の開催など学びの機会拡充を図った。				
評価指標	市民が講座やサークル活動等で、気持ち良く利用できるよう、施設の維持管理を行う。				
成果と課題	施設利用者の安全確保と施設管理として、非常階段補修工事と玄関庇修繕工事を行い、環境を整備した。				
学識経験者の意見	<p>予算削減や人員削減等により、全国的に公民館学習機能の弱体化が進む中、非常によくやっていると思う。</p> <p>今後益々高齢者が元気で暮らすためには拠点が必要となる。本事業の費用対効果は大変高いと認識している。元気な高齢者の拠点になることで、医療費の削減に繋がっているというデータがあれば、本事業の裏づけとなる。</p> <p>今後の課題として、将来的な公民館の多目的な利活用も検討してはどうか。</p>				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

29 ふるさと文化センター（阿仁公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	7,182 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	阿仁公民館施設整備の充実と、定期講座の開催など学びの機会拡充を図った。				
評価指標	市民が講座等で利用できるよう施設の維持管理及び図書室の管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用することができた。				
学識経験者の意見	<p>予算削減や人員削減等により、全国的に公民館学習機能の弱体化が進む中、非常によくやっていると思う。</p> <p>今後益々高齢者が元気で暮らすためには拠点が必要となる。本事業の費用対効果は大変高いと認識している。元気な高齢者の拠点になることで、医療費の削減に繋がっているというデータがあれば、本事業の裏づけとなる。</p> <p>今後の課題として、将来的な公民館の多目的な利活用も検討してはどうか。</p>				

30 陶芸ハウス管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	211 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		1 (1) 期待以下	1 (1) 課題あり	2 (2) 高い	2 (2) 縮小
活動内容	陶芸ハウス利用の充実を図るため維持管理を実施した。				
評価指標	陶芸教室など市民が気軽に参加できる講座の企画を検討する。				
成果と課題	自主サークル（1）、合川公民館講座（1）、あいかわ保育園年長児が陶芸ハウスを利用している。特に、あいかわ保育園年長児は、春から秋にかけて茶碗製作をし、10月に市の文化祭に出展、3月にお茶会をする事業として長年継続しており、子どもの育成に活用されている。				
学識経験者の意見	利用が3団体に限られていることから、更なる改善策の検討を図られたい。伊勢堂岱遺跡を絡めた利用の検討も行ってはどうか。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

31 あいターミナル管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	1,201 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		1 (1) 期待以下	1 (1) 課題あり	2 (2) 高い	2 (2) 縮小
活動内容	あいターミナルを市民が安心して利用できるよう施設の維持管理を行った。				
評価指標	市民が快適に利用できるよう、適切な維持管理や清掃委託を行い、環境整備に努める。				
成果と課題	合川公民館講座（パソコン）の開設を行うなど、市民の利用に活用されている。上杉自治会会館と併設していることから、利活用や管理運営について検討を必要とする。				
学識経験者の意見	有効性が向上するような利活用を図られたい。				

32 北秋田市民ふれあいプラザ管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	28,375 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		3 - 期待以上	3 - 予想以上	3 - 不可欠	4 - 継続
活動内容	「北秋田市民ふれあいプラザ」愛称「コムコム」は、昨年4月30日にオープンした。平成29年3月31日現在、236,536人が来館した。中心市街地の拠点として、「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、市民向け講座等のほか、イベント利用者・自由来館者が快適に過ごせるよう施設の維持管理を行った。 中心市街地の活性化を図る拠点施設として、市民に親しまれる管理運営を目指した。				
評価指標	適切な維持管理を行うことで、市民が安心・快適な利用ができるように図る。				
成果と課題	利用される方のニーズに合わせた適切な管理運営を行い、来館者の増加に繋がった。				
学識経験者の意見	非常に素晴らしい。苦情等にもすぐに対応しているとのことであり、今後も中心市街地の拠点として快適に利用できるよう維持管理を図られたい。 また、多くの学生の利用も見られるので、図書コーナーの設置や就職関連以外の書籍充実も検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

33 放課後児童健全育成事業				主管課	生涯学習課
決算額	76,908 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	市内11箇所、14児童クラブ実施（うち5クラブは社会福祉協議会に運営委託）。登録児童数は578人。保護者が仕事等により留守にする家庭の児童について、放課後等において必要な保育を行い、健全な育成を図るため放課後児童クラブを開設した。				
評価指標	就労家庭への支援事業である放課後児童クラブとして、児童が安心して過ごせる施設として、市内14箇所で実施し、児童の安心安全や健全育成の推進を図る。				
成果と課題	鷹巣小学校と鷹巣西小学校の統合により、一箇所で子どもたちが安心、安全に過ごせるように、鷹巣児童館を新築した。あわせて、備品を購入し、開設に向けて環境整備を行った。				
学識経験者の意見	なくてはならない事業であり、新施設の建設と併せ、非常に子育てに力を入れていると評価される。				

新	34 放課後児童健全育成事業（整備費）			主管課	生涯学習課
	決算額	151,258 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)
2 - 期待どおり			2 - 予定どおり	3 - 不可欠	4 - 継続
活動内容	鷹巣小学校と鷹巣西小学校が平成28年4月に統合されたことにより、鷹巣児童クラブが手狭となったことを受け、7月に廃止された敷地内の給食センター跡地に、児童クラブ棟を建設した。				
評価指標	児童クラブを一箇所に開設することにより、2地区の子どもたちが学校から移動することなく一緒に活動できるようにする。				
成果と課題	子ども教室と一体的に児童クラブを実施できることから、より多くの児童が体験に参加することができ、充実した取り組みを推進することができた。				
学識経験者の意見	これだけの予算を措置し、実施したことは非常に評価される。今後も情勢の変化に対応した取り組みを図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

35 放課後子ども教室推進事業				主管課	生涯学習課
決算額	6,328 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	放課後子ども教室推進事業11教室実施。 いきいきタイム（鷹巣、栄、綴子、沢口、七日市、西部、合川、米内沢、前田、阿仁合、大阿仁）延べ参加人数 13,025人 放課後等に、地域住民の参画を得て、ふるさと学習や体験活動等の機会を提供した。また、放課後児童クラブとの一体型運営を2箇所（鷹巣小・大阿仁小）で実施し、安心・安全な居場所づくりを推進した。				
評価指標	児童クラブ、児童館との連携が深まり、子どもたちが参加しやすい環境をつくり、体験活動の充実を図る。				
成果と課題	地域人材を活用した体験活動の推進を図り、子どもたちがのびのびと過ごしながらか地域の良さを知る活動や、異学年交流を推進することができた。また、子どもの体験学習を支援する大人の人材の確保が課題の一つである。				
学識経験者の意見	勤務している方から「仕事をしていて楽しい」という声を聞いた。雇用を作りかつ子どもとの交流もある、市にとって大変よい事業であると考える。				

36 学校支援地域本部事業				主管課	生涯学習課
決算額	1,588 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	市内全校を対象に地域で学校を支援する活動を実施した。 学校の要望にあわせ、地域の人材を活用し、環境の整備、学習支援、クラブ活動の支援、体験活動や地域探検、登下校時の見守りなど、様々な分野で支援と活動を行うことができた。				
評価指標	学校と地域が協力・連携することで、学校行事等へ支援や参加協力がしやすくなる。 環境整備、登下校時の安全確保、育林活動、伝承芸能、ふるさと学習、読み聞かせ活動等、様々な学校の活動を支援する。 市民の持つ知恵や経験を子どもたちの育成に活かす活動を、新たな生きがいをづくりにつなげ、学校と地域双方の相乗効果を図る。				
成果と課題	地域と学校が共に人材育成に関わり、子どもたちの学習や体験活動の支援を充実させることができた。 ※補助実施校 6校（鷹巣小・米内沢小・合川小・鷹巣中・森吉中・阿仁中） ※単独実施校 上記以外 9校				
学識経験者の意見	国・県の補助がなくなった後の実施が課題であるが、教育効果の高い事業であり、継続実施を望む。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大



37 伊勢堂岱遺跡見学環境整備事業				主管課	生涯学習課
決算額	57,267 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	平成23年度からの計画に基づき事業を行っている。遺跡の見学環境整備と橋梁工事を実施し、世界遺産登録に向けた準備を進めた。 見学環境整備：①環状列石保存処理委託（環状列石C・D遺構面保護処理） 橋梁工事：②伊勢堂岱遺跡橋梁上部工事（上部工、連絡道路工）				
評価指標	世界遺産登録に向けた準備と伊勢堂岱遺跡見学者の利便性を向上させていくことにより、見学環境を整える。				
成果と課題	伊勢堂岱遺跡の環状列石（A～D）保存処理が終了し、橋を新設したことにより見学環境が整い、見学者の利便性が向上し集客が望めるようになった。				
学識経験者の意見	今後も見学環境の整備、利便性向上に努められたい。				

38 伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業				主管課	生涯学習課
決算額	7,787 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	世界遺産登録に向け、市ホームページの拡張による専用ホームページの開設、ロゴマークのリニューアル、ガイドアプリ（タブレット）、館内ミュージックの作成し、広報活動の充実を図ることができた。また、北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産に向けた登録推進事業の経費を負担することにより、遺跡の価値や情報の発信を図ることができた。				
評価指標	世界遺産登録に向け、伊勢堂岱遺跡のブランド力を高めるための事業を実施する。世界遺産登録に向けた推進事業の経費を負担することにより、遺跡の価値や情報の発信に努める。				
成果と課題	世界遺産登録に向け、市ホームページの拡張による専用ホームページの開設、ロゴマークのリニューアル、ガイドアプリ（タブレット）、館内ミュージックの作成を行ったことにより、広報活動の充実を図ることができた。また、北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産に向けた登録推進事業の経費を負担することにより、事業の円滑な執行を図ることができた。				
学識経験者の意見	文化審議会からの指摘に対し、学術的に裏付ける取り組みの実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

39 縄文まつり開催事業				主管課	生涯学習課
決算額	300 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活動内容	第16回縄文まつりを開催し、縄文文化及び伊勢堂岱遺跡の情報発信と各種の体験事業を行い参加者の交流を図った。 体験事業：①土器・土偶づくり②勾玉づくり③火おこし④ストーンペイント ⑤的当て⑥健康チェック⑦ミニコンサート⑧遺跡見学 など				
評価指標	北秋田市の宝である伊勢堂岱遺跡の重要性を、子どもをはじめ市民に分かってもらい、ふるさとに愛着と誇りを感じてもらおう。				
成果と課題	縄文文化及び伊勢堂岱遺跡を広く市内外の人に情報発信することができた。伊勢堂岱遺跡に来たことがない市民にも、足を運んでもらうよう情報発信する。				
学識経験者の意見	常に内容を見直しながら、継続実施を図りたい。				

40 交流センター管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	14,035 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活動内容	市民の交流や活動の拠点施設として活用され、管理委託・清掃委託及び各種保守点検委託による維持管理を実施した。				
評価指標	市内外から利用され、地域活動の拠点として活用される。				
成果と課題	適切な維持管理と補修を行うことで市民の方々の交流の場と活動の拠点としての役割を担うことができた。また、正面出入口の自動ドアの修繕により、利用環境の向上が図られた。				
学識経験者の意見	地域活動の拠点として継続実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

41 図書館事業				主管課	生涯学習課
決算額	15,382 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	市民の学習施設として図書の充実と施設の維持管理に努め、運営については、鷹巣図書館で試行的に開館時間の時間延長を実施し、利用者の利便性やサービスの向上に努めた。				
評価指標	図書の充実と利用者の利便性やサービスの向上に努める。また、事業の実施により図書に親しんでもらう機会を提供する。				
成果と課題	図書館・図書室等と県立図書館など相互協力を図り、本の取り寄せなどのサービスを行った。また、鷹巣図書館では開館の時間延長を試行し、使用者が利用しやすい環境作りに努めた。 図書資料について、図書館協議会や利用者から意見をもらい充実に努めた。今後はPR活動に力を入れ、図書館を利用したことがない人にも足を運んでもらう。				
学識経験者の意見	図書館としての機能充実を図るため、県立図書館や大学の図書館からも借りられるということをもっと上手くPRしてはどうか。 また、他県での実績もある高校生等の図書館ボランティアの実施も検討してはどうか。				

42 文化会館管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	30,350 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	市民が芸術文化の活動に参加できるよう、適切な維持管理や保守点検等を行う事により、市民が安心して利用できる施設や設備を維持することができた。				
評価指標	市民が芸術・文化活動に参加・活動できるよう施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理や保守点検等を行うことにより、市民の方々が安心して利用できる施設や設備を維持できた。 また、市の文化祭の開催や市内外の芸術活動の発表の場として活用され、芸術文化の振興が図られた。				
学識経験者の意見	芸術・文化活動の拠点として維持管理を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

43 みちのく子供風土記館管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	391 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	直木賞作家の渡辺喜恵子氏の顕彰館であり、市民の交流活動の拠点として利用されるよう施設の維持管理を実施し、利用の向上に努めた。				
評価指標	市民が学習や交流の場として使用できるよう施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、市民に気軽に利用できる施設として、芸術文化の振興が図られた。				
学識経験者の意見	継続実施していくことに意義のある事業であると考えます。				

44 浜辺の歌音楽館運営事業				主管課	生涯学習課
決算額	4,631 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	成田為三先生の業績や作品を音楽博物館として顕彰し、後世に引き継いでいくため施設の維持管理を実施した。 また、定期演奏会・墓前演奏会・少年少女合唱団コンサートを実施し、成田為三先生の音楽に触れる機会の充実に努めた。				
評価指標	成田為三の作品を後世に引き継いでいく音楽博物館として施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、定期演奏会・墓前演奏会・少年少女合唱団コンサートを実施し、成田為三先生の音楽に触れる機会となった。				
学識経験者の意見	継続実施していくことに意義のある事業であると考えます。 浜辺の歌は全国誰でも知っているが、成田為三が当市の出身であることはあまり知られていないため、PR方法の工夫を図りたい。また、他県では歌を歌う場としてサークル活動の利用に供している事例もあることから、柔軟な施設利用も検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

45 浜辺の歌音楽祭開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	353 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	成田為三先生の功績をたたえ、作品を後世に引き継いでいくため、幼児から児童生徒、一般の合唱団を対象に第11回浜辺の歌音楽祭を開催した。 参加団体：18団体				
評 価 指 標	成田為三の作品を後世に引き継ぐため、子どもから一般の合唱団を対象に音楽祭を開催する。				
成果と課題	参加者に成田為三の作品をより身近に感じてもらうことができた。また、発表の場を設けることで相互の音楽活動の資質の向上が図られた。				
学識経験者の意見	継続実施していくことに意義のある事業であると考える。				

新	46 浜辺の歌音楽館屋根葺替事業			主管課	生涯学習課
	決 算 額	17,864 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)
2 - 期待どおり			2 - 予定どおり	3 - 不可欠	1 - 廃(休)止・終了
活 動 内 容	成田為三の作品を後世に引き継いでいく音楽博物館の屋根葺替工事を行った。				
評 価 指 標	成田為三の作品を後世に引き継いでいく音楽博物館として施設工事を行う。				
成果と課題	浜辺の歌音楽館の屋根葺替工事を行い施設の整備が図られた。				
学識経験者の意見	(平成28年度で終了)				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

47 文化祭開催事業				主管課	生涯学習課
決算額	2,000 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	北秋田市の芸術文化の祭典として、平成28年度文化祭を開催し、展示部門（46団体）と演示部門（69団体：約1,000点）を実施した。開催にあたり、文化祭実行委員会に運営費を補助した。				
評価指標	市民へ芸術・文化活動の発表機会の提供と、文化振興に寄与する。				
成果と課題	市民に芸術・文化の発表と文化交流の場を提供することで、市内における文化の活性化と振興が図られた。				
学識経験者の意見	更なる創意工夫により、文化振興を図りたい。				

48 伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	7,677 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	5 - 拡大
活動内容	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるとともに、その魅力と情報を発信する施設の維持管理を行った。				
評価指標	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるための情報発信施設の役割を果たす。				
成果と課題	伊勢堂岱遺跡縄文館の適切な維持管理を行ったことで、来館者の方々に伊勢堂岱遺跡の理解を深めてもらうための魅力と情報の発信ができた。				
学識経験者の意見	伊勢堂岱遺跡の情報発信施設として、維持管理を図りたい。 また、最寄駅の愛称や通称での呼称により更なるPRを図ってはどうか。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

49 胡桃館遺跡埋蔵資料等管理事業				主管課	生涯学習課
決算額	146 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	国指定文化財である胡桃館遺跡出土遺材の保存管理を行った。				
評価指標	出土遺材の保存管理を行い、遺材の劣化を防ぐ。				
成果と課題	後世に引き継ぐため、保存管理を行うことで出土品の風化・劣化を防ぐことができた。				
学識経験者の意見	現在、縄文文化、鉾山文化、マタギ文化、根子文化と4つの文化をもっている本市において、全国的に見ても学術性の高い遺跡であり、有識者の活用も図られてはどうか。				

50 文化財保護事業				主管課	生涯学習課
決算額	3,128 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	文化財保護審議会委員の報酬、委員会の開催経費や文化財の修繕等維持管理を行った。				
評価指標	市内の文化財の維持管理、文化財の保護などを行う。				
成果と課題	文化財保護審議会の開催や文化財の金家、長岐邸等の維持管理を行うことで文化財の保護が図られた。				
学識経験者の意見	継続して維持管理を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

51 民俗芸能大会事業				主管課	生涯学習課
決算額	402 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	北秋田市民俗芸能大会を開催し、北秋田市に伝承されている民俗芸能等を広く市民に公開するとともに、民俗芸能伝承活動とあわせて技量の向上に努めた。 出演団体：①阿仁前田獅子踊保存会 ②前山郷土芸能保存会 ③米内沢共勇会 ④綴子大太鼓上町保存会 ⑤一日市郷土芸術研究会（八郎潟町）				
評価指標	民俗芸能団体へ発表の場を提供し、民俗芸能の保存と伝承に努める。				
成果と課題	市内に伝承されている民俗芸能の公開と、伝承者の意欲と技量の向上につながった。また他市町村の民俗芸能団体の出演により、出演者の交流を図るとともに、市民の方々に鑑賞してもらう機会を提供した。				
学識経験者の意見	伝承につなげるためにも、何かのイベントと同時開催することも検討してはどうか。				

52 鷹巣北野球場改修事業				主管課	スポーツ振興課
決算額	38,822 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	2 - 高い	1 - 廃(休)止・終了
活動内容	内野部分の土の入替え、外野の不陸整成、バックネット改修を行った。				
評価指標	安全活用及び排水性能の向上により、利用者の安全の確保と利用日数の拡大を図る。				
成果と課題	全面的な凹凸、内野と外野の段差は排除されたことにより、利用者の安全性の確保が図られた。また、排水性能の向上により使用に対する利便性の向上が図られた。				
学識経験者の意見	(平成28年度で終了)				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大



53 北秋田市民プール管理運営事業				主管課	スポーツ振興課														
決算額	18,900 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)														
		3 (2) 期待以上	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続														
活動内容	指定管理制度による公の施設の管理運営事業。 平成27年度から平成31年度までの5年間の指定管理者を選定した。																		
評価指標	指定管理者による管理運営であることから指標設定せず。																		
成果と課題	<p>施設利用人数は平成26年度45,704人、平成27年度52,205人、平成28年度54,215人であり、施設内で開催する各種教室の参加人数は平成26年度12,048人、平成27年度14,024人、平成28年度14,866人と年々増加傾向にあることから指定管理者による運営成果が現れている。</p> <p>平成31年度まで再度指定管理契約を締結し、引き続きこれまでと同じ事業者が管理運営していくことになるが、施設利用者の増加や施設設備の更新など連携し運営に努めたい。しかし建設から10年を経過し、建物や水循環設備の改修等が必要となってきている。</p>																		
	<table border="1"> <caption>北秋田市民プール利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>43,912</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>45,266</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>48,309</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>45,704</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>52,205</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>54,215</td> </tr> </tbody> </table>					年度	利用者数 (人)	H23	43,912	H24	45,266	H25	48,309	H26	45,704	H27	52,205	H28	54,215
年度	利用者数 (人)																		
H23	43,912																		
H24	45,266																		
H25	48,309																		
H26	45,704																		
H27	52,205																		
H28	54,215																		
学識経験者の意見	市民の満足度を評価指標とすれば面白いのではないかと考える。 北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略との兼ね合いから、健康寿命を考慮したデータをとればもっと効果が見えるのではないかと考える。																		

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)      2＝期待どおり(90%超)      3＝期待以上(100%超)  
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)      2＝予定どおり(90%超)      3＝予想以上(100%超)  
必要性……………1＝低い      2＝高い      3＝不可欠  
方向性……………1＝廃止・休止(終了)      2＝縮小      3＝統合      4＝継続      5＝拡大

54 薬師山スキー場管理運営事業				主管課	スポーツ振興課														
決算額	3,830 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)														
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続														
活動内容	指定管理制度による公の施設の管理運営事業。 平成27年度から平成31年度までの5年間を引き続き自治会を指定管理者とし管理運営を行っている。																		
評価指標	指定管理者による管理運営であることから指標設定せず。																		
成果と課題	<p>暖冬の影響で1月からの営業となり、3月も雪解けが早かったことから稼働日数66日間と少なく、利用人数も4,899人と大きく減少した。 しかし、冬季県体バイアスロン競技の開催や、市内外の小学校にスキー教室での利用を呼びかけている。また、夏場にはクロスカントリーコースとして整備し、秋田北鷹高校スキー部や小中学校生のトレーニングの練習に使用されており利用者増加への努力が評価できる。 指定管理制度で地域自治会が運営することで、地域の活性化や地域コミュニティの醸成が図られている。 しかし、圧雪車などの大型機械やナイター設備等の経年劣化による更新が課題となる。</p>																		
	<table border="1"> <caption>薬師山スキー場利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>13,540</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>9,112</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>7,711</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>14,526</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>5,903</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>4,899</td> </tr> </tbody> </table>					年度	利用者数 (人)	H23	13,540	H24	9,112	H25	7,711	H26	14,526	H27	5,903	H28	4,899
年度	利用者数 (人)																		
H23	13,540																		
H24	9,112																		
H25	7,711																		
H26	14,526																		
H27	5,903																		
H28	4,899																		
学識経験者の意見	雪不足の場合の代替が大きな課題である。 ヒュッテ等を利用した何かしらのしかけがあれば面白いのではないかと。																		

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)	2＝期待どおり(90%超)	3＝期待以上(100%超)
費用対効果……1＝課題あり(90%以下)	2＝予定どおり(90%超)	3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い	2＝高い	3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了)	2＝縮小	3＝統合
		4＝継続
		5＝拡大

55 100キロチャレンジマラソン大会補助事業				主管課	スポーツ振興課														
決算額	3,000 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)														
		2 (2) 期待どおり	3 (3) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続														
活動内容	大会運営のため補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図った。																		
評価指標	定員が100キロ(1,350人)50キロ(350人)である。参加者が増えることにより、交流・物流等様々な活性化が図られる。																		
成果と課題	<p>県内外から100キロの部に1,136人、50キロの部に364人合計1,500人のランナーが参加し、秋田県を始め、仙北市、北秋田市、上小阿仁村、自衛隊、消防、企業、ボランティア(約1,900人)の協力により実施され成功裡に終了した。</p> <p>地域のイベントとして定着しており、経済効果とともに参加ランナー及び地域住民の交流と地域の活性化が図られた。</p> <p>全国で100キロマラソンとついで大会が増えてきており参加者が減少傾向にあることから、幅広い範囲での周知活動が必要である。</p>																		
	<table border="1"> <caption>100キロチャレンジマラソン参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>1,639</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>1,708</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>1,726</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>1,603</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>1,702</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>1,500</td> </tr> </tbody> </table>					年度	参加者数	H23	1,639	H24	1,708	H25	1,726	H26	1,603	H27	1,702	H28	1,500
年度	参加者数																		
H23	1,639																		
H24	1,708																		
H25	1,726																		
H26	1,603																		
H27	1,702																		
H28	1,500																		
学識経験者の意見	<p>年齢があがって走れないが、サポーターに回っている人、選手に付いて来た方々との交流があれば面白いのではないかと。</p> <p>この大会は、エードが充実しており、輸送や荷物の搬送もしてくれることから人気の高い大会である。この価値があまり認識されておらず、K P I に対応するには数字がものを言うことから、300万円の補助金でもこれだけの経済波及効果があるというものをいせればよい。</p> <p>宮古島では島民を挙げて運営しているトライアスロン大会があるが、大きな課題はボランティアの高齢化である。6大学に呼びかけて学生ボランティア(若い人)を投入し、県内の流通人口を増やすという取り組みについても検討してはどうか。</p>																		

【評価基準】

有効性……………1=期待以下(90%以下)    2=期待どおり(90%超)    3=期待以上(100%超)  
費用対効果…1=課題あり(90%以下)    2=予定どおり(90%超)    3=予想以上(100%超)  
必要性……………1=低い    2=高い    3=不可欠  
方向性……………1=廃止・休止(終了)    2=縮小    3=統合    4=継続    5=拡大

56 北秋田市スキー大会等補助事業				主管課	スポーツ振興課
決算額	1,900 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活動内容	北秋田市スキー大会実行委員会が実施するスキー大会開催のため補助金を交付し、事業の円滑な運営と雪国の特性を活かしたスポーツ活動の推進を図った。				
評価指標	地域特有の大会であることから、指標設定が難しい。				
成果と課題	第10回北秋田市民スキー大会 (124名) 第69回大館北秋田中学校スキー大会 (29名) 第62回北秋田学童スキー大会 (75名) 第52回大館・北秋田スキー米内沢大会 (35名) 児童数の減少に伴い参加人数も減少傾向にあるが、地域の自然条件におけるスポーツ環境が提供されていることにより、スキー競技へ取組む足がかりとしての目標となっている。また冬期間の運動不足解消へ向けたスポーツ推進及び青少年の健全育成が図られている。				
学識経験者の意見	スキー人口が減っているとはいえ、他の地区からみればまだまだ多い方である。子どもを育てていくためにも、継続実施を図られたい。				

57 北秋田市スポーツ少年団大会派遣費補助事業				主管課	スポーツ振興課
決算額	1,442 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (3) 高い	5 (5) 拡大
活動内容	全県大会以上の大会派遣費を補助する事により、スポーツ少年団活動を助長し、子どもたちの心身の健全な育成及びスポーツ活動の底辺拡大と振興を図った。				
評価指標	大会出場経費に関する不安要素を軽減する目的も併せていることから、指標設定は困難である。				
成果と課題	全県大会出場が6競技延べ27単位団、全国大会出場が1競技1単位団に対して参加費・交通費・宿泊費の一部を補助した。 上位大会出場という目標を持って、スポーツ少年団活動に取り組んでおり、目標達成のためには本事業は有効である。 ジュニアスポーツ団体の活動が多様化してきており、スポーツ少年団に限定せず学校での部活動以外全てのスポーツ団体を対象とすることとした。				
学識経験者の意見	学校団としてのスポーツ少年団は、既に頭打ちの状態にある。スポーツ少年団のあり方の将来構想を、今から持っておいた方がよいと思われる。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
 必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
 方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大

58 北秋田市スポーツ大会開催補助事業				主管課	スポーツ振興課
決算額	438 千円	有効性 (H27)	費用対効果 (H27)	必要性 (H27)	方向性 (H27)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (3) 高い	2 (4) 縮小
活動内容	北秋田市内で開催されている一定規模の大会へ経費の一部を補助する。				
評価指標	大会の開催を要望することは困難であることから、現在開催されている大会を維持する。				
成果と課題	<p>全県大会など一定規模の大会が継続的に開催されることにより、活動目標を定められ地域における競技力の強化が図られる。</p> <p>県内各地において各種競技大会が増えている傾向にあるため、団体に対し開催を促すことは困難である。</p>				
学識経験者の意見	現在の大会維持に努められたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)    2＝期待どおり(90%超)    3＝期待以上(100%超)  
 費用対効果……1＝課題あり(90%以下)    2＝予定どおり(90%超)    3＝予想以上(100%超)  
 必要性……………1＝低い    2＝高い    3＝不可欠  
 方向性……………1＝廃止・休止(終了)    2＝縮小    3＝統合    4＝継続    5＝拡大